澤田恵太郎さん

音楽学部 音楽科 作曲専攻作曲コース

留 学 先：タンペレ応用科学大学（フィンランド）

留学期間：2022 年 1 月～5 月

留学先の大学について

コロナ渦の留学となり、到着してから 2 月頃までオンラインでの授業になってしまったり、現地で飲食する際にワクチンパスポートが必要になったりと通常とは異なる留学を経験しました。
タンペレに到着してから、学生チューターが生活に慣れるまでサポートをして頂きました。留学生向けのイベントや音楽学部での歓迎会なども数多く開催されるので留学生に対して、タンペレ応用科学大学は積極的に留学生に声をかけてくれるので安心して留学生活を送れました。

留学実現のために努力した点

私は大学入学時から留学に行きたいと思っていました。フィンランドのタンペレ応用科学に留学したいと思ったきっかけはタンペレ応用科学大学からの作曲科の留学生と友人になりフィンランドに興味を持ったからです。
留学先が決定する前に努力したことは、当たり前のことではありますが、自分はどのような作曲作品をこれから作りたいかということを日々考えて大学生活を送っていました。
留学先が決定してからは、英語の学習と留学のために必要な資料の作成と自身の作曲作品の英語訳などを行いました。

留学先の授業について

作曲のレッスンは愛知県立芸術大学のレッスンと同じような形式で先生と 1 対 1 で行われ、自分の作曲している作品の制作過程に対してアドバイスを頂いたりしました。
レッスン以外では、作曲科の学生が集まって自身の作品紹介を行い、それに対して学生同士でディスカッションをするようなセミナーが行われていました。

留学中の日常生活について

留学期間中に生活していた場所はタンペレの中心地か南側にある Hervanta のシェアアパートに住んでいました。Hervanta から大学までは路面電車で約 20 分ほどの距離でした。買い物はアパートの近くにある Duo という名前のスーパーマーケットで買い物をして自炊しながら生活しました。
タンペレは割とアジア人も多く住んでいるようで、アジアンマーケットやお寿司屋も数多くあり、私がフィンランドに滞在中はアジアンヘイトなどの差別は一切感じませんでした。

留学中に努力した点

作曲のレッスンで、自分の作品の作曲過程を説明するのに音楽の専門的な英単語や言語化が難しい感覚的な表現をレッスン中にすぐ言語化するのが難しい場面があったので、毎回のレッスンで先生に分かりやすく説明するための英語で作成した資料を持ってレッスンに臨んでいました。

留学で気づいた点

私はタンペレとヘルシンキに何度も演奏を聴きに行きました。その際にプログラムの中に古典的な作品以外にも現代音楽の作品も数多く組み込まれていて日本と比べて現代音楽が演奏されるということが珍しいことではありませんでした。聴衆も現代音楽を聴くことに対して寛容であるように感じ、フィンランドでは新しい作品を知ることは珍しいことではなく当たり前の事になっていることに気づきました。

留学の成果

今回の留学の成果として、タンペレは自然が豊かな環境で学べたことで、心のゆとりができました。
留学前から海外の作曲家は現代音楽をどう捉えて具体的に自分の作品作りをしているのか興味があり、それを直接聞くことができ、さらに彼らの最新の作品に触れる機会も得ることができました。
また、ヘルシンキに現代音楽の作品を聴きに何度も訪れたのですが、素晴らしい演奏に触れることで、自分がこれからどのような作品を制作したいのかを発見でき、作曲家になりたいという気持ちがより強くなったことが私の成果です。

経験をどう生かすか

自分の作品を作る上で多くのヒントを今回の留学で得ることができました。
この経験を活かして自己の作曲作品により磨きをかけていけたらと思います。